



ENEOS

証券コード 5020

2026年5月14日

ENEOSグループ

企業価値向上に向けた取り組みの状況

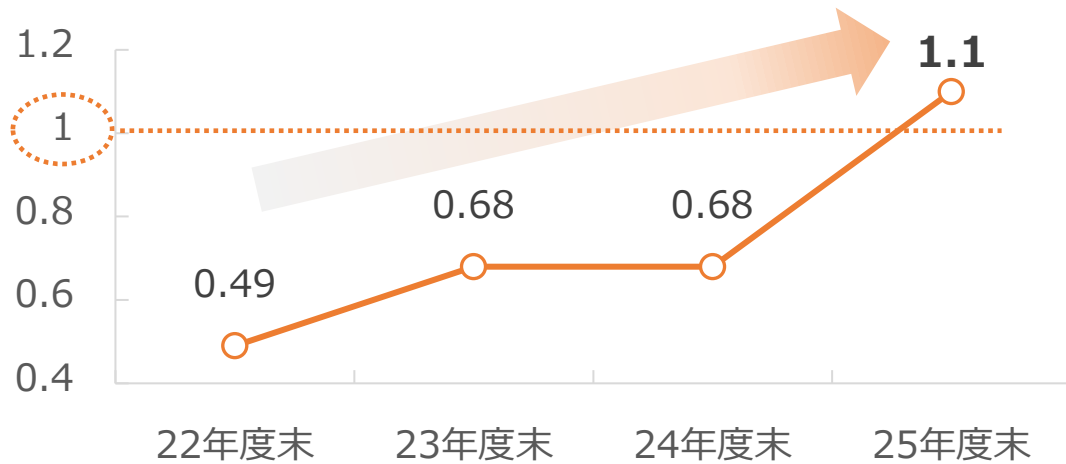
ENEOSホールディングス株式会社

企業価値向上に向けた取り組み 現状認識

- 2026年3月末時点のPBRは、1倍を上回る水準へ改善
- ROEは株主資本コストを上回る水準で推移するものの、さらなるPBR向上にはROEの改善が課題

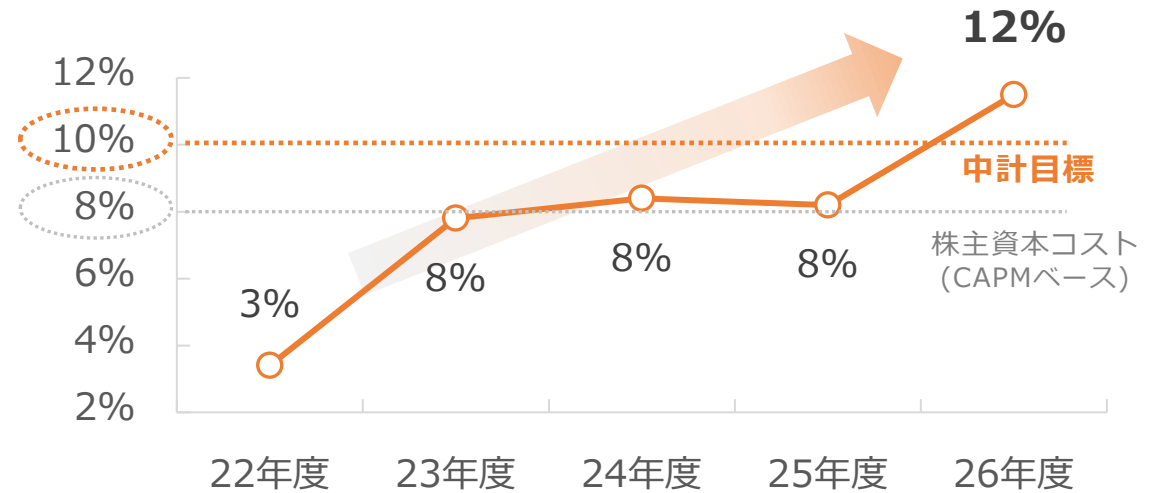
PBR

グループ会社再編や累進配当方針による増配など、各種中計施策の評価・期待が株価に反映されているものと認識



ROE (在庫影響除き)

堅調な白油マージンや五井火力発電所の全基稼働を受け改善傾向引き続き、中計施策を着実に実行 (詳細次頁)




さらなるPBR向上には
ROEの改善が課題

$$\text{PBR} \uparrow = 1 + \frac{\text{エクイティスプレッド (ROE} \uparrow \text{ - 株主資本コスト)}}{\text{株主資本コスト - 期待成長率}}$$

- 厳選した投資の実行による事業ポートフォリオ再編、徹底的な効率化による既存事業の収益最大化等の第4次中期経営計画に包含される取り組みを通じて、ROE改善を推進

事業ポートフォリオ再編

■ 海外燃料油事業の拡大

- 東南アジア・豪州における石油精製販売事業への参画を決定（2027年 クロージング予定）
 - **コスト競争力の高い輸出型製油所と安定的なマージンを生む下流ビジネスを獲得し** 内需減退が避けられない中、東南アジア・豪州の需要を着実に取り込む
 - 燃料油・潤滑油販売事業の効率化・トレーディング事業の拡大などを通じ、**2030年度 営業利益250MUSD、EBITDA 380MUSDを目指す**
- 
- **JX金属株式の追加売却**
 - 当社事業ポートフォリオ転換と企業価値最大化のため JX金属の実施する自己株式の公開買付けへの応募を決定

既存事業の収益最大化

■ グループ会社の組織・体制再構築

- グループ会社別の保有方針（統合/売却等）を決定
連結対象会社は、2025年3月末から約▲100社の削減を計画（NIPPOグループおよびペーパーカンパニー等を除く）
- グループ会社削減と存続会社のガバナンス強化を両立し、当社グループ全体のROIC向上を図る

■ AI活用の推進

- サプライチェーン全体・業務全域でのAI活用を通じ、業務効率向上・組織スリム化に向けた検討・開発を推進

■ 製油所の競争力強化

- トラブル削減施策は一定の成果が発現
- 設備投資による計画稼働の向上と合わせ、2027年度に定修除き稼働率90%を目指す

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、
実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。

かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化
- (3) 訴訟等のリスク

などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。